

第14回総会議案書

(1) 2019年度の活動報告(前回総会以降) * 敬称略

① 研究大会および総会の開催

第25回大会(通算55回) 2019年6月1日(土)、職員集会所大広間

参加者 31名(学内15名、他大学その他16名)

13:00—13:30 総会

議長 杉本 隆司

【個人研究発表】(一橋大学国内交流セミナーを兼ねる)

13:40—15:10 岸 俊輔(東京大学)

「メタ哲学的主張としての概念工学—科学との距離について—」

【講演】

15:20—17:20 井頭 昌彦(一橋大学)

「形而上学的実在論タイプの物理主義を論難する」

司会 井頭 昌彦

司会 干場 薫

17:30—19:30 研究懇話会(職員集会所 食堂)

第26回大会(通算56回) 2019年12月7日(土)、佐野書院小会議室

参加者 12名(学内11名、他大学1名)

【個人研究発表】

14:00—15:30 高橋 駿仁(一橋大学)

「啓蒙黎明期の歴史研究—ニコラ・フレレの歴史擁護と宗教批判」

15:40—16:40 高木 駿(一橋大学)

「カントと公的空間—趣味判断の多元主義の観点から」

司会 森村 敏己

司会 井頭 昌彦

17:00～ 懇親会

② 学会発表者の募集(前回総会以降、3回)

1、2019年冬大会の募集・・・5月15日付(応募期間6月17日～7月15日)

応募者2名・・・査読の結果、採用される。

2、2020年夏大会の募集・・・11月27日付(応募期間1月15日～2月11日)

応募者1名・・・入会手続きを経て、査読の結果、採用される。

3、2020年大会の募集(夏大会延期に伴う追加募集 9月28日～10月11日)

応募者1名・・・査読の結果、採用される。

③ 「一哲学会報」の発行

【第31号】（2019年12月4日発行）

掲載記事・・・第26回冬大会案内／個人研究発表要旨／個人研究発表募集のご案内

【第32号】（2020年12月4日発行）

第27回大会案内・第14回総会案内／個人研究発表要旨／総会議案書／加藤先生原稿／大河内先生原稿

④ 総会・幹事会

第13回総会 2019年6月1日（土） 議長 杉本 隆

第1回幹事会 2019年9月25日（水） 社会思想共同研究室

第2回幹事会 2020年3月5日（木） 社会思想共同研究室

第3回幹事会 2020年4月3日（金）～ メール審議

第4回幹事会 2020年10月14日（水） オンライン開催

⑤ 渉外関係・・・特になし。

⑥ 学会ホームページ

HPの更新・管理を特任助手が業務の一つとして行った。『一哲学会報』は、図書館の機関リポジトリ（Hermes-IR）に登録されている。

（2）今後の活動方針について

休会の提案

2020年3月5日に開催された一橋大学哲学・社会思想学会幹事会において以下のような方針案が策定された。については2020年12月5日に開催予定の総会において、代表幹事より提案し、承認を求める予定である。

大学を取り巻く情勢が厳しいことは言うまでもないが、本学においても哲学および社会思想を担当する教員は2020年度よりそれぞれ一名ずつとなった。定年退職もしくは他大学への移籍により教員数が減少する一方で、予算の継続的削減に伴う人事計画の見直しにより後任人事が進まないことが原因であるが、こうした状況が改善される時期については明確な見通しが立っていない。また、現在、当学会の運営事務の大部分を担当している共同研究室特任助手も2020年度末をもって退職するが、その後は共同研究室助手というポストそのものが廃止され、従来のような形での助手の雇用は行われなことが決定している。

専任教員の減少とそれに伴う哲学・思想史専攻の大学院生の減少、担当助手の退職、共同研究室制度の廃止といった状況に鑑み、幹事会で議論を重ねた結果、従来のように年に二回、定期的に学会を開催することは困難だと判断するに至った。そのため、教員の増員等の体制が整うまで学会としての活動は当面休止することにしたい。

ただし、大学院生にとっての研究発表の場を残すため、また他大学から研究者を招聘する等の活動を継続するために、今後はセミナーという形を取ることにしたい。定期開催ではなく、報告の希望が寄せられた場合や、興味深い企画が提案された際に、セミナーを開催することとする。学会のホームページは残し、セミナー開催が決まればホームページ上で告知したうえで、メールでも通知する。なお、経費と労力の節約のため、今後は封書による連絡は廃止することにする。

一橋哲学・社会思想学会代表幹事 森村 敏己